

# いわふね 自然愛好会 会報

2023. 12. 25

第58号

発行:いわふね  
自然愛好会

## 【観察会】

### 小川型黒雲母花崗岩と大石-牟礼山登山口沿道自然観察会



9月10日(日)猛暑の中、小川型黒雲母花崗岩と大石-牟礼山登山口沿道の自然観察会が、小学生を含む17名の参加で開催されました。

関川村の大石川と小川の合流点の河原で、草水小川型花崗岩・実川型花崗岩等の花崗岩と堆積岩類等についての説明を受けました。又、他の産地の花崗岩と比較しながら、その生立ち・主な成分の説明を受け、それぞれの特徴を知ることができました。

そのあと金俣小川用水に移動し、高地にある田畑への水の供給についての説明(前に観察会を実施した鮎谷への供給等について)を受けました。用水では、イモリ、ドジョウ、小魚のお出迎えもあり、久

しぶりに里山の野山と小川の環境を味わうことができました。

更に、大石-牟礼山登山口までの植物観察では、高坪山周辺での植物と同様に、ガガイモ、ケキブシ、サルナシ、ノギラン、ツルリンドウ等が見受けられました。その他8月28日に開催した下見時には、別紙の通り76種の植物の観察を行うことができました。(植物リスト P5参照)



ノギラン

今回の観察会では、代表的な波石の観察も計画していましたが、昨年の県北豪雨の被害で道路の通行止めがあり、残念ながら観察できませんでした。波石の大きいものが胎内平等にありますので、機会があれば観察も可能です。

(鎌田 記)

## 観察会に参加して

今井 さん(新潟市 会員)

村上市は新潟県の20市・7町・4村の中で一番面積が広く2,274.24㎡、今回の観察会となった関川村は299.5㎡です。

今回は主として「小川型黒雲母花崗岩と大石-牟礼山登山口沿道」観察では牟礼山から流れ出る小川と大石川の河原でいろいろ岩石を梅田会員から丁寧な説明をしていただきました。

花崗岩は地中の深いところで冷え固まってできた「深成岩」で、草水小川型花崗岩と実川型花崗岩があります。草水小川型花崗岩の草水型は、桃色花崗岩で主成分は桃色カリ長石・石英・斜長石・黒雲母、副成分は、ジルコン・褐簾石・燐灰石です。川から拾って説明していただいたのですが全部が頭に入りませんでしたので、今後もよろしくお願いします。



小川型黒雲母花崗岩

+ 【観察会】

門前-大栗田線自然観察会(下見会)

10月15日(日)「門前-大栗田線自然観察会」は、雨天のためやむなく中止となってしまいました。そこで、10月2日(月)に実施した下見会の概要をお伝えします。

「岩石」

下見会では、梅田会員が採取した岩石2種類をテーブルに並べて説明しました。

採取した岩石は粘板岩という黒色堆積岩です。泥岩と砂岩の2種類、ともに硬い岩石です。日本列島の地質構造区分では、足尾帯と呼ばれ、日本列島を形づくった付加体の岩石です。約1億6千万年前の中生代ジュラ紀中頃大量の付加体が形成され広く分布しています。海溝やトラフには陸地からの砂や泥が堆積します。そこに海洋プレートにのった石灰岩、玄武岩、海山などが移動してくると、沈み込みに伴ってそれらの一部がはぎ取られ、海溝に堆積した土砂とともに大陸側におしつけられ、付け加えられました。

門前集落から上流右前方を見ると、まぢかに大平山550mが見えます。400万年前頃、深い海の底だった大平山山系が傾動隆起をはじめて陸上に姿を現わし

た時、門前川が先行河川として流れていました。粘板岩でできている大平山山系の隆起速度より、門前川の浸食速度の方が大きいので、現在、門前から大栗田までの7kmは門前川溪谷をつくっています。この溪谷も、黒一色の粘板岩でできています。



溪谷に沿う道路は、粘板岩を削って開設したため、のり面は崩落防止の防護壁でできています。

秋の紅葉の季節はとりわけ絶景です。道沿いの植物観察は他の観察地点にはない植物が見られます。ヤマヒルがいるので、ヒルの心配の少ない秋の絶景のころが自然観察にはとてもよい季節です。雨天で観察会が中止になったのはとても残念でした。

(梅田 記)

「植物」

大栗田線観察会は当日雨のため中止。下見は10月2日に実施されその記録を紹介します。当地域は少し深い谷のある貴重な観察地です。門前川右岸、北東向きの少し切り立った崖、湿り気のある観察地。それで、少し奥まった谷川沿えの植物が見られるのではないかと期待しながら観察を開始しました。

はじめ目についたのはツリフネソウやキツリフネの紫や黄色の鮮やかな花の群れ。次に里山ではあまり見られないタマブキの小群落。



キツリフネ



タマブキ

また、クガイソウ、ゴマナ、サワアザミ、ミヤマニガウリ、マルバノホロシ、オクモミジハグマ、ヤマトキホコリなどが各所に点在。そのほか野にある草花や樹木なども見られ、その数は123種に及び、内容も多様でした。



マルバノホロシ



ミヤマニガウリ



ヤマトキホコリ

最後に耕雲寺山門入口の池の湿地にあるヤマトミクリ(絶滅危惧Ⅱ類VU)は湿地に生え、なかなか見つけられない植物です。池にある看板を一読してもらいたいものです。

(横山 記)

【環境保全活動】

環境フェスタin村上2023「要害山の自然Ⅲ(底生動物・両生類・爬虫類・鳥類)」

10月21日(土)村上市民ふれあいセンターにおいて、4年ぶりに「環境フェスタ」が開かれました。自然愛好会も「要害山の自然Ⅲ(底生動物・両生類・爬虫類・鳥類)」をテーマに、ブース展示を行いました。

村上市では、令和3年に「第二次村上環境基本計画」を策定し、「豊かな自然と調和しながら発展して共生する循環共生型社会のまち」を目標として決めました。この環境フェスタは、その啓発活動の一環であり、子どもから大人まで、環境について楽しく学べる会として計画されたものです。今年は、以前に調査した「要害山」の底生動物・軟体動物・両生類・爬虫類及び鳥類の調査結果の概要と、画像・標本等の展示を行いました。

当日は、あいにくの天気でしたが、発表を終えた小学生や大人の来場が続き、興味をもってブース内を見学していました。四つ葉のクローバーのプレゼントもあり好評でした。来場者は、爬虫類や鳥類の表情に驚き、村上市の自然の素晴らしさに気づいてくれたと思います。

(川村 記)

## 【報告会】

### 高坪山自然調査報告会

11月11日(土)13:30~16:30 情報センター視聴覚ホールにて、3年にわたった高坪山の自然調査(2022年度あらかわみらいファンド助成事業)の報告会が開催されました。



報告内容は、(1)植物 (2)菌類(きのこ)、クモ、爬虫類、鳥類 (3)水質・底生動物、魚類、カタツムリ、両生類、哺乳類、下鍛冶屋堤の水質・動物についてです。

(1)については中村 会員 (2)については近 会員 (3)については富樫会員が、それぞれ報告しました。概要は以下のとおりです。

#### (1) 植物

「植物観察の魅力は、歩いている脇にある植物の名前が分かる喜び。植物の特徴を知り植物の仲間が増えていく喜び!」

①3年間で計43回の調査を行った。

調査地点は次の4か所。

- ・鍛冶屋堤まわりのA地点。
- ・下の駐車場からテニスコート、グラウンドの後ろなどのB地点。
- ・ラベンベンダーの植えてある駐車場から登山口駐車場に向かって、その途中までのC地点。
- ・登山口~山頂までのD地点。

②確認できた種数は622種。

③絶滅危惧種等、注目すべき種としてトケンラン、ヒメシャガ等6種。

④帰化率は全体で11.0%、柴田氏の報告が9.3%なので若干帰化率は高くなったといえそう。場所による差はD地点(登山道)だけが7.6%と低く、他はほぼ同じような帰化率。

⑤日本の侵略的外来種ワースト100の中ではオオキンケイギク、セイタカアワダチソウ、イタチハギ。

調べていくうちに、分かっているつもりがどんどんわからなくなってくるのが度々起こった。

#### (2) 菌類(きのこ)、クモ、爬虫類、鳥類

キノコは237種確認。運動公園の草刈り状態の良い場所ではアカヤマタケが、堤周辺では樹木と共生するイグチ、ベニタケ、テングタケなどが多かった。

クモは69種を確認し、大型の網を張るタイプの種が目立った。爬虫類は8種にとどまった。公園内の芝生内などでカナヘビとトカゲの個体数が多く、マムシも数多く目撃された。鳥類は45種確認した。公園内の植栽樹木の花の蜜や

果実を目的としてスズメ、ヒヨドリ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロが多かった。

近会員の調査法はラインセンサス法によるもの。カメラのレンズを通し生き物のいきいきした姿を捉えるという手法が際立つ。これを拡大した画像からは、自然の魅力をも十分に引き出し、細部の構造を明らかにする高い技術力を発揮。見る者に新鮮な驚きと感動を呼び起こす大きな力をもっている。

#### (3) 水質・底生動物・カタツムリ・魚類・両生類・哺乳類・堤の生物

高坪山の西側を流れる6本の川の水質は、蔵王川以外はきれい。そこに住む底生動物は70タクサ(分類群)。カゲロウとカワゲラ、トビケラが高い割合を占め、山地溪流の特徴を示している。また、川の源流部のヨコエビなども多かった。

魚類は昭和42年羽越水害を生きのびたニッコウイワナが梨木川に、蔵王川にはドジョウ、アブラハゼなど3種。全体として、魚類が住むには厳しい川になっている。カタツムリはヒダリマキマイマイ、ニッポンマイマイなど3種。

ラベンダー公園先の林道脇と堤のササ類に多かった。両生類は10種。ヤマアカガエルとツチガエルが比較的多く、アズマヒキガエルが梨木川と堤遊歩道で確認された。トウホクサンショウウオは堤東の沢に産卵。哺乳類ではサルのほかタヌキ、イタチ、ノウサギの情報が多く、特にイノシシの穴掘り跡が至る所にみられた。堤内ではオオクチバス、ブルーギル、ミシシッピーアカミミガメなどの特定外来生物で占められ、かつてのメダカなどの在来種は一掃されていた。

## 報告会に参加して（感想）

浅井さん（新潟市 小学5年）

報告会の日、会場に入ると、ぼくはわくわくしました。席に座る人が増えて、開始の時刻に近づいてくると、これからどんな発表があるのかなと思ってドキドキしてきました。

会が始まって、発表を聴いていくと、ぼくは大好きな高坪山にいる生き物や植物のほんの一部しか知らなかったんだと、すごくびっくりしました。本当にたくさんの生き物や植物が住んでいるお山なんだと分かりました。

そして、こんなにたくさんの生き物や植物がいる高坪山のことを前よりもっと好きになった気持ちと、高坪山を大切にしたいという気持ちで胸がぼかぼかになりました。

どうしたら高坪山を守ることができるのだろう、どんなふうを守ったらそこに生きる生き物や植物が喜ぶのだろうと考えながら、登りたいです。そして、たくさんの人に高坪山の素晴らしさを知ってもらいたいと、今回の報告会に参加し、発表を聴いて思いました。

次に高坪山に行く日が楽しみです。ぼくもお山を守る活動をしっかりとしたいです。そして、高坪山にいつもありがとうと言いたいです。

## 高坪山自然調査報告会を聞いて

金子さん（村上市 会員）

とても素晴らしい、発表会でした。それは、中村さんも近さんも、富樫さんも、ご自分が採集した標本をきちんとご自分であれこれ調べ、考察を加えてまとめているからです。これはなかなかできることではないです。もちろん、自然愛好会会員の皆さまのバックアップもあったとは思いますが、とても感銘を受けた発表会でした。

私は皆さまの発表を聞きながら、これら発表資料を、市民がいつでも見ることのできる博物館があるといいのになあとつくづく思いました。本当にすぐれた文化遺産です。

## 近 重雄会員から「画像データ」の寄贈を受ける

キノコと爬虫類の研究者として、皆さんよくご承知の近会員は、また、自然写真家としての技量もプロ並みの腕前です。この度、病気養療のため休会を決断したのを機に、これまで50年余り撮影・蓄積された「画像データ」を外付けハードディスクに保存し、小会へ寄贈されました。

画像の内容は、現職のころ、「ポーラスター」天文台長を務められたこともあって、天体から、キノコ、爬虫類、昆虫、植物、両生類、鳥類、哺乳類、クモ類、カタツムリ、アカハネバツタ、高坪山などの風景と幅広い分野が含まれています。54ページのリスト表が付され、検索の便まで図っております。



寄贈された画像は、近会員の労作で優れた作品群であるばかりでなく、個人の意図を超えて、圏域の半世紀の自然史の記録写真でもあります。地球温暖化や環境激変が危惧され、持続可能な社会の実現が叫ばれている今日、その価値は、時間を経るごとに高まるものと思います。

小会としては、環境フェスタその他の機会に広く活用し、また、次世代へ伝えていきたいと思えます。

幸い、近会員はリハビリに励み病状を克服し、明春には皆さんと一緒に活動することを切望しております。寄贈に御礼申し上げるとともに、一日も早い回復を願いたいと思えます。

## 緑化推進功労者賞を受ける



去る10月11日、荒川地区公民館を会場に「第63回岩船林業振興祭」が開かれました。式典では、林業振興などに尽力した1個人5団体が表彰を受けました。小会は「緑化功労者表彰」と、報奨金7,000円を授与されました。式典には会を代表して会長が出席しました。

表彰状は総会の折りに、皆さんに披露する計画です。

# 小川型黒雲母花崗岩と大石一牟礼山登山口沿道自然観察会下見時の確認種リスト

日時:2023年8月28日

場所:小川と大石一牟礼山登山口沿道

参加者:横山、梅田、田川、安達、鎌田、斉藤、斎藤、金子  
森川、中村、富樫 計 11名

番号	和名	科名	備考	番号	和名	科名	備考
1	アカソ	イラクサ		39	トリアシショウマ	ユコノシタ	
2	アカメガシワ	トウダイグサ		40	ノギラン	ラン	※
3	アブラガヤ	カヤツリグサ	※	41	ノダフジ	マメ	
4	イタヤカエデ	ムクロジ		42	ノブキ		
5	イヌコウジュ	キク	※	43	ノブドウ	ブドウ	
6	イヌビエ	イネ	※ケイヌビエかも。	44	ノリウツギ	アジサイ	※
7	イワガラミ	アジサイ		45	ヒカゲイノコヅチ		
8	ウワミズザクラ	バラ	※	46	ヒメコウゾ	クワ	
9	オオカメノキ	ガマズミ		47	ヒメヤシャブシ	カバノキ	※
10	オオバクロモジ	クスノキ		48	ヒヨドリバナ	キク	
11	オカトラノオ	サクラソウ		49	ヒルガオ		
12	オトギリソウ	キク	※	50	ブタクサ	キク	
13	オトコエシ	オミナエシ		51	ブタナ	キク	
14	オニトコロ	ヤマノイモ		52	ヘクソカズラ	アカネ	
15	オニヤブソテツ	オシダ		53	ベニバナボロギク	キク	
16	ガガイモ	ガガイモ	※	54	ホオノキ	モクレン	
17	カヤツリグサ	カヤツリグサ		55	ホソバナウナギツカミ		※
18	キレハノブドウ	ブドウ		56	マルバアオダモ	モクセイ	
19	キンミズヒキ	バラ		57	ミズヒキ	タデ	
20	クズ	マメ		58	ミゾソバ	タデ	
21	クマイチゴ	バラ		59	ミツバアケビ		
22	クリ	ブナ		60	ムシトリナデシコ	ナデシコ	
23	ケキブシ	キブシ		61	モミジイチゴ	バラ	
24	コバギボウシ	キジカクシ		62	ヤハズソウ	マメ	
25	コブナグサ	イネ	※	63	ヤブソテツ		※
26	サルナシ	マタタビ		64	ヤブヘビイチゴ		
27	シシガシラ	シシガシラ		65	ヤマアジサイ	アジサイ	
28	シバ	イネ		66	ヤマウルシ		
29	ジュウモンジシダ	オシダ		67	ヤマツツジ	ツツジ	
30	ススキ	イネ		68	ヤマナラシ	ヤナギ	
31	ゼンマイ	ゼンマイ		69	ヤマノイモ		
32	ソメイヨシノ	バラ	牟礼山入口付近	70	ヤマハギ	マメ	※
33	タニウツギ	スイカズラ		71	ヤマモミジ	ムクロジ	
34	タマバシロヨメナ	バラ		72	ユウガギク	キク	
35	タラノキ	ウコギ		73	ヨシ		※
36	チチミザサ	イネ		74	ヨモギ		
37	ツクバネ	ビャクダン		75	リョウブ	リョウブ	
38	ツルリンドウ	リンドウ		76	ワラビ		

・カワラナデシコではなくて、ムシトリナデシコでした。

・ヤシャブシはヒメヤシャブシでした。

門前一大栗田線自然観察会下見時の確認種リスト

日時:2023年10月2日

場所:門前一大栗田線沿道

参加者:横山、河内、鎌田、工藤、梅田、斎藤、中村、富樫 計8名

番号	和名	科名	備考	番号	和名	科名
1	アオキ	ガリア		62	セイタカアワダチソウ	キク
2	アオミズ	イラクサ		63	セイヨウタンポポ	キク
3	アカソ	イラクサ		64	ソメイヨシノ	バラ
4	アカネ	アカネ		65	タケニグサ	ケシ
5	アキニレ	ニレ	※	66	タニウツギ	スイカズラ
6	アキノウナギツカミ	タデ		67	タニソバ	タデ
7	アキノノゲシ	キク	※	68	タマバシロヨメナ	キク
8	アキヒメシバ	イネ		69	タマブキ	キク
9	アマチャヅル	ウリ	※	70	ダンドボロギク	キク
10	アメリカセンダングサ	キク		71	チヂミザサ	イネ
11	アリノトウグサ	トウグサ		72	チマキザサ	イネ
12	イタドリ	タデ		73	チャボガヤ	イチイ
13	イヌガラシ	アブラナ	※	74	ツリフネソウ	ツリフネソウ
14	イヌガンソク	イワデンダ		75	ナガバノウナギツカミ?	タデ
15	イノデ属	オシダ	※サカゲイノデ?	76	ナギナタコウジュ	シソ
16	イワガネゼンマイ	ホウライシダ	※	77	ナンブアザミ	キク
17	イワガネソウ?	ホウライシダ	※	78	ニシキギ	ニシキギ
18	ウツギ	アジサイ		79	ニワトコ	ガマズミ
19	ウリノキ	ミズキ		80	ヌカキビ	イネ
20	エノキグサ	トウダイグサ		81	ノボロギク	キク
21	オオチドメ	ウコギ		82	ハナタデ	タデ
22	オオバコ	オオバコ		83	ハリエンジュ	マメ
23	オオハンゴンソウ	キク	※	84	ヒカゲイノコヅチ	ヒユ
24	オカトラノオ	サクランソウ	※	85	ヒトリシズカ	センリョウ
25	オトギリソウ	オトギリソウ	※	86	ヒメクグ?	カヤツリグサ
26	オトコエシ	キク		87	ヒメコウゾ	クワ
27	オニグルミ	クルミ		88	ヒメジソ	シソ
28	カゼクサ	イネ		89	フキ	キク
29	カヤツリグサ	カヤツリグサ		90	フジバカマ	キク
30	カラムシ	イラクサ		91	ヘラバヒメジョオン	キク
31	カワラスゲ	カヤツリグサ		92	ボタンヅル	キンポウゲ
32	キツリフネ	ツリフネソウ		93	マタタビ	マタタビ
33	キバナアキギリ	シソ		94	マルバノホロシ	ナス
34	キレハノブドウ	ブドウ		95	ミズタマソウ	アカバナ
35	キンエノコロ	イネ		96	ミズヒキ	タデ
36	クガイソウ	オオバコ	※	97	ミゾソバ	タデ
37	クサギ	シソ		98	ミヤマニガウリ	ウリ
38	クジャクシダ	ホウライシダ		99	ムカゴイラクサ	イラクサ
39	クズ	マメ		100	ムシカリ	ガマズミ
40	クヌギ	ブナ	※	101	ムラサキシキブ	シソ
41	クワクサ	クワ		102	メナモミ	キク
42	ケアブラチャン	クスノキ		103	メリケンカルカヤ	イネ
43	ケキツネノボタン	キンポウゲ		104	モウソウチク	イネ
44	ケキブシ	キブシ	※	105	モミジイチゴ	バラ
45	ケヤキ	ニレ		106	モミジバフウ	フウ
46	ゲンノショウコ	フウロソウ		107	ヤクシソウ	キク
47	コゴメガヤツリ	カヤツリグサ	※	108	ヤノネグサ	タデ
48	コタニワタリ	チャセンシダ		109	ヤハズソウ	マメ
49	コブナグサ	イネ	※	110	ヤブソテツ	オシダ
50	ゴマナ	キク	※	111	ヤブタバコ	キク
51	コムラサキ	シソ		112	ヤマアイ	トウダイグサ
52	コメナモミ	キク	※	113	ヤマグワ	クワ
53	サワアザミ	キク	※	114	ヤマトキホコリ	イラクサ
54	サワグルミ?	クルミ		115	ヤマトミクリ	ガマ
55	シダレヤナギ	ヤナギ		116	ヤマニガナ	キク
56	シバ	イネ		117	ヤマノイモ	ヤマノイモ
57	ジュウモンジシダ	オシダ		118	ヤマハギ	マメ
58	スギ	ヒノキ		119	ヤマブキショウマ	バラ
59	スギナ	トクサ		120	ユリノキ	ユキノシタ
60	スズメウリ	ウリ	※	121	ヨシ	イネ
61	スズメノヒエ	イネ	※	122	リョウメンシダ	オシダ

## 報告とお知らせ

今年度予定しておりました事業は、お陰様で滞りなく終了致しました。ご支援・ご協力ありがとうございました。なお、『高坪山の自然』は12月の発行を予定しております。

### 令和5年度事業の報告

【会議】総会を含め役員会等 7回開催

【研修会】2023年1月22日(日)「越後の山と森を歩くーブナ林二次林からブナ巨木ー」  
講師：武田 宏様 (前新潟県森林研究所課長)

### 【観察会】

実施日時	実施内容	参加人数	会場等
4月9日(日)	国史跡指定山元遺跡周辺の自然観察会	会員19名 一般24名	山元遺跡周辺
5月21日(日)	日本国山自然観察会	会員8名 一般3名	日本国山
6月18日(日)	菅堅八幡社叢林と寝屋漁港周辺観察会	会員19名 一般他8名	寝屋漁港・菅堅八幡社
7月23日(日)	荒川頭首工周辺(水害跡地)自然観察会	会員18名 一般他6名	荒川頭首工・小岩内
9月10日(日)	小川型黒雲母花崗岩と大石一傘礼山登山口沿道自然観察会	会員15名 一般1名	関川村金俣
10月15日(日)	門前一大栗田線自然観察会 雨天中止・10月2日下見会実施	会員8名(下見会)	門前・大栗田線

荒川みらいファンド助成事業

4月29日(土)蔵王権現跡とブナ巨木林自然観察会：参加者36名 8月5日(土)油坪(シクルト油田)と火山灰観察会：参加者7名  
11月11日(土)調査報告会・高坪山の自然：参加者：会員32名、市民他28名

### 【学習支援】

地域の小中学校児童生徒への学習支援：瀬波の歴史・植物、荒川の水生生物調査等 10回  
担当会員：河内、小嶋、工藤、中村、田川、安達、富樫

### 【調査と活動】

#### 調査と環境保全

・アカハネバツタの生態調査と保全活動

今年度も環境省から依頼を受け、昨年と同様に5月～11月まで2回のペースで種の保存種のアカハネバツタの生態調査と保全活動に取り組んで来ました。  
場所は塩谷海岸、内容は幼虫調査・植生調査・除草・コドラート調査で計15回(コドラート調査6回含む)  
毎回10名程度参加

・3月に『塩谷海岸の自然報告書』  
(地域自然調査報告書第9号)発行予定

・環境フェスタin村上2023に参加  
「要害山の自然Ⅲ」の紹介  
主な概要は本会報P2に掲載



#### 調査

・山元遺跡周辺自然調査

4月～11月毎月2回のペースで計14回  
山元遺跡周辺自然調査(うち1回は話し合い) 毎回7名程度参加  
確認ができた植物は会報56号に掲載



クサギ



クニシヅク

下記の内容で第4回三役会と第2回役員会が開催され、総括を含め次年度総会の議案が審議されました。その内容については以下のとおりです。

- 1.日 時 2023.12.2(土) 13:00～15:45
- 2.場 所 村上市生涯学習推進センター 2F 中会議室
- 3.内 容 総会に提出する報告及び提案事項の審議  
①第1号議案:2023年度事業と決算について  
②第2号議案:2024年度事業(案)と予算(案)について  
③その他  
・役員改正について  
・ホームページ開設に伴う掲載内容の取り扱いについて  
・個人情報等への配慮事項の不備について

#### 4. その他

(1) 2024年度総会関係について

- ①日 時 2024.1.21(日) 13:00～14:50
- ②場 所 村上市教育情報センター 1F 視聴覚ホール

(2) 講演会について

- ①日 時 2024.1.21(日) 15:00～16:10
- ②場 所 村上市教育情報センター 1F 視聴覚ホール
- ③講演内容(演題) 笹川流れ海中記
- ④講 師 青木貴志様 (いわふね自然愛好会会員)

(3) 2024年度懇親会について

- ①日 時 2024.1.21(日) 17:00～19:00
- ②会 場 扇屋旅館

#### 総会・講演会・懇親会のご案内

コロナ感染防止対策の影響でやむなく中止となっておりました懇親会を総会・講演会終了後に久しぶりに行いますので、是非、ご参加下さい。また、参加態様は、総会・講演会・懇親会のいずれか1つだけでも結構です。

日 時 2024年1月21日(日) 午後1時30分  
会 場 総会及び講演会は村上市教育情報センター1階 視聴覚ホール  
懇親会 講演会終了後会場へ移動 午後5時～7時 扇屋旅館

いわふね自然愛好会会報 第58号  
発行者：会長 富樫 繁 春  
〒958-0213 村上市早稲田 1962-47  
Tel. Fax 0254-73-1348  
E-mail : [sph43189@ozzio.jp](mailto:sph43189@ozzio.jp)  
編集：会報担当 斎藤美